

手書きの良さ、書く喜びを伝えたい

「全国からの作品とともに、自分の作品が展示され、感謝と嬉しさでいっぱいです」と笑みを広げるのは、昨年10月18日から21日まで開かれた第37回全国健康福祉祭（ねりんピック）岐阜大会美術部門に岩手県代表として書を出品した関山幸子さん。

選考会で高評価を受け岩手県代表となった作品は、浄土真宗の宗祖、親鸞が著した『正信念佛偈』約850文字を、濃紺の和紙に金泥を使い細字で書いたもの。東日本大震災の惨状を目の当たりにし「今、書かなければ。書で平穏な日

※『教行信証』に書かれた、教えの内容を凝縮した漢文

常を願わなければ。との思いに突き動かされて「震災の年に仕上げた。選考会への出品は、書の師に勧められたこともあり」「戦争の絶えない今だからこそ、見てもらえればいいかなって」とその経緯を語る。

書道は「小学生の時に、母から手ほどきを受けて始めた」と言う関山さん。「運動会でも習字でも、賞を取るとノートや鉛筆をもらえてうれしかった」と当時を思い出す。高校まで続けた書道は、進学や就職などで一度離れたものの30代で再開。「思い出深いのは、京都での昇段試験に臨む際に、亡き夫に何時間

も墨をすつてもらったこと」とこれまでを振り返る。昭和60年に夫の実家がある旧西根町に移り住むと、周囲から「子どもたちに教えてほしい」と請われ、62年4月には自宅に書道教室を開設。教室は本年度で39年目を迎え、教えた生徒は100人を超える。かつての教え子が親になり、その子どもも通うようになった。

「これまで続けてこられたのは、師、家族、生徒、たくさんの人に支えられてのもの。子どもから大人まで、上達していく生徒の姿に元気をもらっている」と周囲への感謝に人柄がにじみ出る。「自分の書は、まだまだっという思いがあるので」と、今月3回、盛岡へ稽古に

全国健康福祉祭（ねりんピック）岐阜大会に親鸞の『正信念佛偈』を記した書を出品
日本習字平館教室 代表

関山 幸子さん（雅号 翠月）

せきやま・ゆい 83歳 共新

も墨をすつてもらったこと」とこれまでを振り返る。昭和60年に夫の実家がある旧西根町に移り住むと、周囲から「子どもたちに教えてほしい」と請われ、62年4月には自宅に書道教室を開設。教室は本年度で39年目を迎え、教えた生徒は100人を超える。かつての教え子が親になり、その子どもも通うようになった。

「これまで続けてこられたのは、師、家族、生徒、たくさんの人に支えられてのもの。子どもから大人まで、上達していく生徒の姿に元気をもらっている」と周囲への感謝に人柄がにじみ出る。「自分の書は、まだまだっという思いがあるので」と、今月3回、盛岡へ稽古に



心新たに、書初めた作品を掲げる生徒たち（1月6日）

通い、師のもとで腕を磨く。書道の魅力は「終わりのない難しさや、無心になれるところかなあ」と微笑む。「デジタルの時代だからこそ、手書きの良さが見直されている」とのテレビ報道に「とても共感した」という関山さん。「書くことで、子どもたちには、きつと構成力や集中力も養われている」とも。「楽しく書いてもらうと私もうれしいし、書くことが大好きになって、上達を感じてもらえればいいな」と思いを込める。

「これまで続けてこられたのは、師、家族、生徒、たくさんの人に支えられてのもの。子どもから大人まで、上達していく生徒の姿に元気をもらっている」と周囲への感謝に人柄がにじみ出る。「自分の書は、まだまだっという思いがあるので」と、今月3回、盛岡へ稽古に

通い、師のもとで腕を磨く。書道の魅力は「終わりのない難しさや、無心になれるところかなあ」と微笑む。「デジタルの時代だからこそ、手書きの良さが見直されている」とのテレビ報道に「とても共感した」という関山さん。「書くことで、子どもたちには、きつと構成力や集中力も養われている」とも。「楽しく書いてもらうと私もうれしいし、書くことが大好きになって、上達を感じてもらえればいいな」と思いを込める。



ねりんピックに書を出品した関山さん。書は、文字が描かれていない部分に「南無阿弥陀佛」の文字が浮かび上がる。

【広告】この広告は、広告主の責任において市が掲載しているものです。

関節痛、腰痛、骨を丈夫に
コミュニティバス
「八幡平中央整形」バス停そば
(八幡平中央 整形外科・内科クリニック)
漢方の あさひ薬局
八幡平市大更25-118-1 TEL0195-75-2227

編集後記

▽生産者、販売店舗、来訪者の3者にとって、良い企画になれば、という思いで、市内の産直・立ち寄りスポットを紹介するコーナー（第1回は道の駅にしね）を企画しました（19頁参照）。ほうれん草ソフトや、もっちり豚まんは安定の人気だそうですが、個人的にはレストランのほうれん草揚げ餃子が、私の推しメニューです。▽「いつか表紙に」と係内で考えていた寄木櫛入り。本号で掲載することができました。当日は、晴れたり吹雪いたり、安定しない天気でしたが、白装束を身にまとった子どもたちは元気いっぱい、笑顔で地域を練り歩き、見守る大人もつられて笑顔に。地域行事の良さがぎゅっと詰まった素敵な伝統行事でした。 (千)